

---

# 仮面ライダーサムライ

文照一

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーサムライ

### 【コード】

N4636P

### 【作者名】

文照一

### 【あらすじ】

仮面ライダーサムライはいつか街のため戦い続けるだから命の危険だつてある……。まさに仮面ライダーサムライ達の物語が始まる……。

## 「プロローグ」(前書き)

この小説は注意深く見守って下さい。文才悪くなる可能性があるのですいません。

これからも宜しく願います。オリジナル怪人はこれからも募集したいと思っています。

## くプロローグく

### くプロローグく

江戸時代で仮面ライダーサムライが居たのである。彼は日本の侍であった。

仮面ライダーサムライが次々と悪人達を倒したのである。それに江戸で有名なサムライとして認知されたことである。

しかし、仮面ライダーサムライは江戸から突然消えたのだ。なぜ消えたのか分からない。それに江戸中で知れ渡った消えた侍として口コミみたいに伝えたである。いつの間にか都市伝説になったのである。仮面ライダーサムライの正体は誰も分からなかった。

現代になって仮面ライダーサムライのこと誰も知らなかった。しかし仮面ライダーサムライのことを知ってる人がいたのだ。そして彼がいつか現れるのか……。

## くプロローグく（後書き）

???? 「仮面ライダーの初小説として楽しんでください。」  
???? 「まだ名前出ないのね。しばらく待つよ」

## あかね色に染まる坂の始まり（前書き）

あかね色に染まる坂が好きなので仮面ライダーとコラボする小説書きましたので宜しくお願いします。だいぶ原作と違うところがあります。

## あかね色に染まる坂の始まり

（現代）

21世紀に入った頃、夕陽町は平和であった……。その頃、湊さんと準一さんと優姫が3人で暮らしてる。優姫は両親が海外に行ってるため湊さんと準一さんの両親と知り合いのため預けてるのだ。しかし最初は優姫と準一さんがいるんなことでもめたが

最終的に和解し、湊さんも認めたである。しかも準一さんと優姫さんが付き合ってる状態らしい。

さてと……。湊サイド。

湊「いろんなことあったねえ。準一さんと優姫さんが公園でキスしたりとかありましたね。フッフ」と笑って言った。湊「あ、そうそう。準一さんが生徒会長になりましたよ。それに私は書記になりましたね。冬彦さんとかにぎやかな生徒会だな」と嬉しく笑って言いました。

あ、湊さんが朝食作ってる途中でこんなこと言ってます。湊「あ、起きる時間ですね。」と言って行ききました。準一さんはもうすでに起きたである。準「おはよう、湊ちゃんの写真もいいですね。いつも笑顔でいてね」と嬉しく言ったら湊「もう……。いつもそんなことばかり言ってるね。恥ずかしい」と赤い顔で言ってる。優姫起こしますので先に朝食に行ってください。準一兄さん」と一瞬で真剣な顔で言ってる準「分かった」と出て朝食に向かったである。湊が優姫の部屋に行ったである。

湊がドアに手を叩いて「朝だよ」と言ってみたがなかなか優姫起きないので部屋の中に入って起こしにきました。強く起こしたら優「うん。眠いなあ。」とすぐ眠い顔で言った。湊さんが優姫さんの肩を持って朝食食べに行くであった。

朝食食べ終わってから着替えて3人は私立アミティー工学園に行つて歩きました。

優姫がこんなこと言いだした。優「お父様から電話あったけど仮面ライダーのこと知ってるか??」と言つてた。他の2人は驚いたである。準「仮面ライダーってテレビの中だろ??」と言つてた。湊さんも同感してた。優「お父様が仮面ライダーを追つて探してるみたいけどまあ知らないな」とほつとく顔で話した。3人はお父様が何か考えてるのかわかりませんという顔でしてた

ある所で謎の仮面ライダーと怪人が戦っていたのである。

???「ディア!!!くらえ仮面ライダーキック!!!」と言つて怪人を倒したである……。

変身を解いて「夕陽町に行くか」と言つて行つた……………。



## あかね色に染まる坂の始まり（後書き）

作者「ふう・・・小説って難しいんだなと思いました。感想  
とご意見も待っています。よろしく願います。オリジナル怪人  
募集したいので願います。」

**謎の仮面ライダー登場！！（前書き）**

とつとつ謎の仮面ライダーが現れます。怪人も出てきます

外道怪人サイザウス登場

## 謎の仮面ライダー登場！！

春休み中、あの3人は私立アミティー工学園に来たのである。4月で始まる入学式とかそのための準備である。そう。あの3人は高校生になる……。そして波乱の高校生活が始まる……。

準「ああ、生徒会は疲れるなあ。僕が生徒会長をやるなんて最初信じられなかったからなあ。」とだるい顔で言っつて湊「しょうがないだもんね。あの観月先輩が推薦するなんて信じられなかったねえ。最初何でだろうと思った。」と笑顔で言っつて優姫も同感だったのである。

歩きながらアミティー工学園の生徒会室に着いたのである。教室の中に入ったら冬彦君がいたのである。冬「3人遅いですね」と涼しい顔で言っつたらあの3人が突っこんで「あなた早起きすぎるぞ」と言っつた。いやはや生徒会で話し合い始まったのである。入学式の確認とかいろいろしてた。

その時準一君が言い出したのである。準「仮面ライダーいるか？信じますか？冬彦君」と真剣な顔で冬彦君に言っつたら冬「仮面ライダー？居るんじゃないかな？いたら信じるね」とやれやれな顔で言っつた。優「仮面ライダーのこと知ってるみたいけどどこから聞いた？？」と言っつたら冬「裏の情報でどこか仮面ライダーがいるみたいと噂で聞いてた」と笑顔で言っつた。冬彦君は裏の情報も知ってる人です。元々裏の組織に居た方ですからね。湊「なにか嫌なことするんだけどまあ今は生徒会の仕事に集中するわ」と笑顔じゃない顔で言っつた。冬彦君と優姫と準一君が「そうだね」と言っつた……。

その時、知らない人が夕陽町にきた。「フッフ、お様の子供を殺

すか」と急ぎ足で言った。

そしてあの謎の仮面ライダーも夕陽町にきてたのである……。

準「優姫、湊、冬彦君お疲れ様です。そして帰りましょう」と言っていた。あの3人と楽しい話しながら歩いた……。冬彦君と分かれて湊と優姫と準一君の3人が家まで歩いてた……。しかし知らない人がやってきた。優姫「あれ？変な人がいるな。私を見てるけどいやな気配がする。」準一「おい、湊と優姫、公園に逃げるぞ！！！！」と大きな声で言った。そしたら知らない人が「ハハハッ逃げるつもりか変身！と言っててサイミたいな怪人になった。3人は恐怖の顔をして公園に逃げだした。

あの3人は公園に逃げだしたけど狼みたいな怪人が早い足できてた。サイミたいな怪人「グググ、優姫と言う人いるんだな。ある人から殺しの依頼受けてたもんね。ギャンギャン」と言って優姫「えっ、嘘？なんで」と倒れて気絶した。湊も気絶してしまった。準「くそ、殴るしかないな。」と殴りに言ったら狼みたいな怪人がかわして腹を殴ったので気絶してしまった……。サイミたいな怪人「良い獲物だな。あの3人殺そうかな」とあの3人に向かって行ったらサイミたいな怪人の背後になにか当たって倒れた。サイミたいな怪人「グググ！？あんたは誰だ？？」と言ったら暗いの下で……。

そう……。？？？「やっぱり怪人いたんだね。良い人を殺すなんて許さない！！僕の名はそうだ。仮面ライダーサムライだ。」と印鑑を持って言った……。

## 謎の仮面ライダー登場！！（後書き）

文照「最後に仮面ライダーサムライが出ました。そして僕初めてのオリジナル怪人も出ました。どうでしょうか？？」

文照「次は外道怪人オカミザウスと戦います。初戦闘になりますので文法少し覚悟してくださいね。宜しくお願いします」

そして感想やご意見等を待っています。楽しみに待っていますよ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4636p/>

---

仮面ライダーサムライ

2010年12月13日01時08分発行